

先進医療としての腹腔鏡下広汎子宮全摘術の再発のリスク因子の後方視的検証 (JGOG1081s-A1)

1. 研究の対象

2014 年 12 月から 2016 年 11 月までの 2 年間に先進医療として行われた腹腔鏡下広汎子宮全摘術を受けられた方、JGOG1081s に参加された方

2. 研究目的・方法

研究期間：研究機関の長の許可日 ～ 西暦 2019 年 12 月 31 日

先進医療として行われた Laparoscopic Radical Hysterectomy (LRH) 263 症例の実態調査研究を過去に行っており、この症例を対象に手技の詳細を含めた長期予後の追跡調査を行い、さらに一定の基準を設けることで良好な予後の担保を行うことができるかを検証します。

3. 研究に用いる情報の種類

術前 MRI と摘出標本での最大腫瘍径、LRH 執刀症例数、子宮回収方法、リンパ節回収方法、術後 30 日以内の合併症の詳細、再発部位の詳細 等

4. 外部からの情報収集

外部からの情報収集は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行い、当院の研究責任者が保管・管理します。

5. 研究組織

金尾祐之	がん研有明病院 婦人科
三上幹男	東海大学 産婦人科
寺井義人	大阪医大 産婦人科
山下 剛	市立函館病院 産婦人科
梅村康太	豊橋市民病院 女性内視鏡外科
干場 勉	石川県立中央病院 産婦人科
田中浩彦	三重県立総合医療センター 産婦人科
安藤正明	倉敷成人病センター 婦人科
長谷川哲哉	大和市立病院 産婦人科
志岐保彦	大阪労災病院 産婦人科
浅田弘法	新百合ヶ丘総合病院
舟本 寛	富山県立中央病院 産婦人科
干場 勉	石川県立中央病院 産婦人科

吉田 浩	横浜市立市民病院 産婦人科
小谷泰司	近畿大学 産婦人科
京 哲	島根大学 産婦人科
杉山 徹	高木病院
戸上真一	鹿児島大学病院 産科・婦人科
野間 純	広島市立広島市民病院 婦人科
松浦俊明	福岡総合病院 産婦人科
藤原 浩	金沢大学附属病院 産科婦人科
吉野 潔	産業医大 産婦人科
権丈洋徳	九州大学医学部付属病院 産婦人科
藤岡 徹	愛媛大学医学部付属病院 産婦人科

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内
で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

横浜市立市民病院 〒240-8555 横浜市保土ヶ谷区岡沢町 56

電話 045-331-1961（病院代表） 産婦人科 吉田 浩

研究責任者：

横浜市立市民病院 産婦人科 吉田 浩